

玉永寺通信

2012.1
賀正
第41号



帰命無量寿如来
南無不可思議光

昨年は東日本大震災の直後に親鸞聖人の御遠忌法要を迎えるという、激動の一年でした。その後も社会情勢は厳しさを増していきます。今年は玉永寺のすべての行事において、再点検、再企画をする心づもりで、スタートを切りたいと思います。

行事の核になりつつある同朋会の活動について、皆さまにお知らせします。今年は硬筆のお手本でもある、親しみやすいテキストを使うことになりました。

毎日の「帰命無量寿如来」のお勤めから、この時代を生きていく智慧を、楽しく学びたいと思います。

毎月第4土曜日、午後2時より、
今年度第1回は3月24日（土）です。
初めての方、大歓迎です。みなさま、ぜひご参加ください。

ばあちゃん大丈夫だよ

孫の言葉に励まされ

ナントカスルカラ 竹田 浩美 富山市横内

主人が亡くなり、7カ月が過ぎ去った。詩にもあるように、人は亡くなる時「千の風」になるとか。何だか空から見ている気がして、初夏には爽やかな初夏の、夏にはたぐましい夏の、秋にはおぼろげな秋の、空の雲の写真を撮る癖がついてしまった。

透き通った真っ赤な桜の落ち葉が舞う小春日の縁側。ついつい涙腺が緩み、ほろほろと涙がこぼれてきた。傍らで遊んでいた2歳半の初孫の萌彩が私の後ろに回って、もみじのよつな手で「ヒロばあちゃん、タイシヨウプ？ タイシヨウプ！ タイシヨウプ！ 萌彩ちゃんがナントカスルカラ。ネッ」と、いい子いい子を



「ありがとうね、ありがとうね。ばあちゃん大丈夫だよ」と答えた。

孫が帰ると、潮が引いたように、静かになった。お仏壇に、孫の確かな成長と今日の出来事を報告した。遺影の前には、ピンクのラムネ玉1個と、ポップコーン1粒が、いびつに並んでお供えしてあった。それを見て、弱虫ばあちゃんはまた、ほろと涙してしまった。

この記事は12月6日の北日本新聞朝刊に掲載されました。毎月の命日に一緒に参りしている竹田さんの心情に、あらためて共感しました。

法事はした方がよいのか、葬儀は必要なのか、そう問われることが多くなりました。厳しい経済状況もあります。昔からの価値観が変化したことの表れだと思います。

「供養」という事は、仏に出会い、仏を仏としてもてなすことだと教わりました。竹田さんの文章ですと、夫を自分を見守る仏として見出し、手を合わせお念仏申すことが、それに当たると思います。また、成長し、励ましてくれるお孫さんにも仏を見ておられるのでしょうか。

悲しいご縁ですが、諸々の仏たちと新たに出会い直し、「供養」のきっかけを経験されているのでしょうか。

先祖供養はしなくてはならないのではなく、ご縁があれば、否応なく、していることなのだと思います。こうした仏縁が尊いのです。

感慨深い文章を拝読し、日頃感じていることを書かせて頂きました。合掌



玉永寺日誌

9月21日～22日 東日本大震災視察

台風の北上と重なりましたが、復興支援の基地となっている仙台の東北別院と、津波で全壊した陸前高田の寺院を視察してきました。震災の傷跡は痛々しく、これからも長い支援が必要だと実感しました。

9月24日 玉永寺同朋の会



仏具磨きをしました。皆様のおかげでピカピカのお道具で報恩講を迎えることができました。

10月20日～21日 玉永寺報恩講



岩谷英樹さんのフォークコンサートと埴山法雄さんの法話で報恩講を勤めました。

11月28日 ごまんさん



御遠忌法要参加者、同朋の会会員、ご近所の方に呼びかけて、本山御正当報恩講のパブリックビューイングを行いました。賑やかなごまんさんになりました。

11月28日 本山御正当報恩講



前住職が上山し、聖人750回御遠忌御正当報恩講に参詣しました。29日、阿弥陀堂修復のための動座式にも参加しました

12月3日 さようならと感謝のじゅい



小出老人クラブと玉永寺子ども会の交流イベントです。少子化の波の中、なんとか存続させようと、知恵を絞っています。

応援します！



よくぞここまでやってくれた

富山一に2-1で競り勝ち、初の栄冠に輝いた。「うれしいの一言、よくぞここまでやってくれた」。下馬評を覆し全国切符を勝ち取った教え子たちを誇らしげに見つめた。

チームを率いて11年目。3年連続で4強入りを果たし、富山南を県内の強豪に育て上げたが、プレーヤーとしてのサッカー経験はない。大学時代はアメフトに打ち込んだ。



人さのけ

全国高校サッカー県大会で初優勝した富山南高監督

まえだ あつし さん
前田 篤 さん

年前。赴任先の富山西でサッカー部を任された。「自分は子どもたちにプレーの手本を見ることができない」。遠征先で強豪校の監督に教えを請うなどし、サッカーの理論や指導法を磨いた。「サッカーを通じた人づくり」を理念に掲げる熱血ぶりは、当時から変わらない。

決勝ではピッチサイドから大声で指示を送った。1点リードで折り返すと「守りに入るな。最高の舞台を楽しんでこい」と叱咤。終了のホイッスルを聞き、コーチと抱き合うと不意に涙がにじんだ。「文武両道を目指してトップに立てたことは、ほかの公立高校にとっても大きな意味がある」と言う。全国の舞台は12月30日から始まる。「選手たちには、気後れせず自信を持ってプレーしてほしい」
高校では体育を指導。県サッカー協会理事を務める。富山市水橋在住。52歳。(社会部・八ッ橋和磨)

11月13日の北日本新聞です。ご門徒の前田さんは中学の先輩でもあります。12月31日が全国大会の1回戦です。

新緑の山

富山市 村井義正 作



「里山に春が訪れ、新緑に覆われた。厳しい寒さに耐えた樹々。そのいのちの息吹に感動し、筆をとった。」と話をして下さいました。本堂に展示しています。

2012年 (平成24年) 年忌表	
1周忌	2011年 (平成23年)
3回忌	2010年 (平成22年)
7回忌	2006年 (平成18年)
13回忌	2000年 (平成12年)
17回忌	1996年 (平成8年)
23回忌	1990年 (平成2年)
27回忌	1986年 (昭和61年)
33回忌	1980年 (昭和55年)
50回忌	1963年 (昭和38年)



子ども会での腹話術ステージ

編集後記 「龍」の落款がある水彩画は富山市在住の加藤隆一さんの作品です。今回の通信はご門徒さんの記事が多くなりました。合掌 (編集 住職)

玉永寺通信

発行所 富山市水橋小出五二

真宗大谷派玉永寺

TEL 076 (478) 0846

<http://www.gyokueiji.net/>